

中国地域半導体関連産業振興協議会 第3回会合 意見交換要旨

<人材育成・確保>

- ・学生は、BtoBの企業をあまり知らない。半導体企業が何をしているか分からないという学生が少なくないが、1割程度の学生は、半導体企業へのインターンシップ、企業見学に行きたいと考えている。企業にも協力いただき、「半導体産業がどうしてこんなに面白いのか」ということを一緒に作り上げていって、学生に伝えていきたい。(大学)
- ・産業界から学に求められる新たな人材像について、機械系やAI、統計等を理解しているなどがでてきた。どういうことを学校として教えるべきかが明確でなければ、先生も好きなことを教えてしまうので、企業側とも調整して、求める人材像や必要なスキルセット等を整理していきたい。(高専)
- ・クリーンルームの出入りなどの負担が負のイメージに繋がっている可能性もあるため、クリーンルームの出入りの際の負担を最低限にできる工夫等も本協議会では議論すべきであり、こうしたことが学生へのPRにもつながっていくと考える。(企業)
- ・先端半導体工場では、工場内に人はほとんどおらず、開発系の人材ニーズが多い。企業の規模感によって、状況は異なるが、どういう層でどういう人材が求められているのかについて、産業界とすりあわせをしたい。(大学)

<サプライチェーン強靱化・集積強化>

- ・技術交流会の中で企業側がサプライヤーに情報を開示していくのは、現実的に難しい。(企業)
- ・地域の取組、地域間の連携等の議論も含めて、工場にも恩恵があるような議論ができるといい。(企業)
- ・BCPの観点から、生産に協力できる企業とマッチングできれば良い。また、自社の営業にも繋がる良い機会になる。(企業)
- ・戦略的に日本がどういう方向に向かっていくべきか議論をする際のベースとなる特許のペタントマップがあると、企業にとっても思考スピードが速くなると考える。技術交流会に特許庁の参画があっても良いのではないかと。(企業)
- ・技術交流会は、半導体関連装置の技術動向を知る機会であるとともに、産学連携の場、企業間連携の場として期待している(企業)

- 直接的には半導体関連の事業を行っていない会社では、どのように半導体産業の勉強をしておけば良いか分からない。教科書的に学ぶにしても範囲が広すぎて、自社の強みをどこに活かせば良いのか分からないといった面があるため、「きっかけ」をつかめる場として今回のような技術交流会の開催は有り難い。(企業)
- 中国地域で、どういうサプライチェーンを築くのか、他の地域、グローバルの中でどう棲み分けしていくのか、深く議論していく必要がある。一回と言わず、複数回ワークショップをやっても良いと思う。(企業)
- 技術交流会について、環境部分の情報開示はハードルが低いので、マッチングのフォーカスする領域として設定すると良いかもしれない。(企業)
- ワークショップ、技術交流会の後に、名刺交換会等、交流の場があると良い。(企業)
- 技術交流会では、これまで半導体業界と関わっていなかった企業とつながりが持てると良い。例えば、自動車業界などのノウハウを製造装置の製造に活かせられる部分はあると思う。(企業)
- 部品や材料について専門家のアドバイスをいただきたいと思うことがある。こうしたアドバイスをできる機関や人材がいると、技術交流会への参加障壁は下がると思う。(企業)
- 東北地域では、部品の調達等を目的として試験的に技術マッチングシステムを作っているの
で、東北地域との連携もしてはどうか。(企業)

以 上